



業界情報 紹介コーナー

2024年10月の知っていた方がよい情報（月刊）第38号

1. 【近年の自動車保有動向】

《国内の保有台数は10年間、微増で推移しています》

2015年8067万台～→2023年8245万台→2024年8257万台

※保有台数が増加し続けている要因の1つに自動車の「使用期間の長期化」が挙げられます。

《平均車齢の推移も10年間、伸び続けています》

2015年12.04年～→2022年13.39年→2023年13.58年

※平均車齢は統計開始以来18年最高齢を更新しています。

2. 【2024年度の部品、用品の見通し】

2024年第1四半期は、認証不正問題の影響で前年▲6.8と低調なスタート

※用品販売には期待は持てない中、円安傾向が続いている事で国内のレジャー志向が高まり、旅行や帰省をはじめとしたドライブ需要が伸び、それらに伴い部品や油脂の需要増加が見込まれます。

3. 【2023年度の部品品目別市場規模から2024年を考える】

消耗部品→
1位 エアコンフィルター840億円
2位 オイルフィルター691億円
3位 ワイパー678億円
4位 ディスクパット499億円
5位 補機ベルト422億円
6位 マフラー304億円

ケミカル→
1位 プレーキフルード286億円
2位 クーラント254億円
3位 シャシー塗装剤128億円

※オイルが3年連続増、ケミカルは10年連続過去最高が見込まれる



業界情報 紹介コーナー

4. 【2024年度のタイヤ、バッテリーの見通し】 ←

タイヤ⇒2023年は夏冬タイヤ共に低調に終わったが、今年も若干の伸びで推移←

※前シーズンのタイヤの内訳は、「夏タイヤ 51%」「冬タイヤ 34%」「オールシーズン14%」←
バッテリー⇒販売数量は減少、販売金額は増加し高単価製品への需要シフトが鮮明←

※一般、ハイブリット補機バッテリーは対象台数が減少し需要も減少、一方アイドリング←
ストップ用、ENバッテリーは需要が拡大している〔その為単価はアップすると考えます〕←

5. 【後絶たぬ大型車車輪脱落事故、脱着時の潤滑剤の使用も一因（国土省調査） ←

23年度の脱落事故は142件、2年連続過去最高となりました。←

事故の6割が冬に発生し、タイヤ交換後30日以内が5割を超えています。←

※推定要因としてボルト、ナット部分への潤滑剤の適切な塗布がされていない事が要因←

※潤滑剤の目的は、①焼き付き防止②錆を防ぐ③締め付け力を均等に働かせるのが目的←

④ナットの緩み防止⑤ボルトの損傷防止などが挙げられます。←